

Management 2

持続可能で未来につなげる

- 施策3 健全な財政運営に努めます
- 施策4 公共施設の適切な維持管理に努めます
- 施策5 情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します
- 施策6 適切な情報発信を行います
- 施策7 市民との協働を進めます



施策3

健全な財政運営に努めます

現状と課題

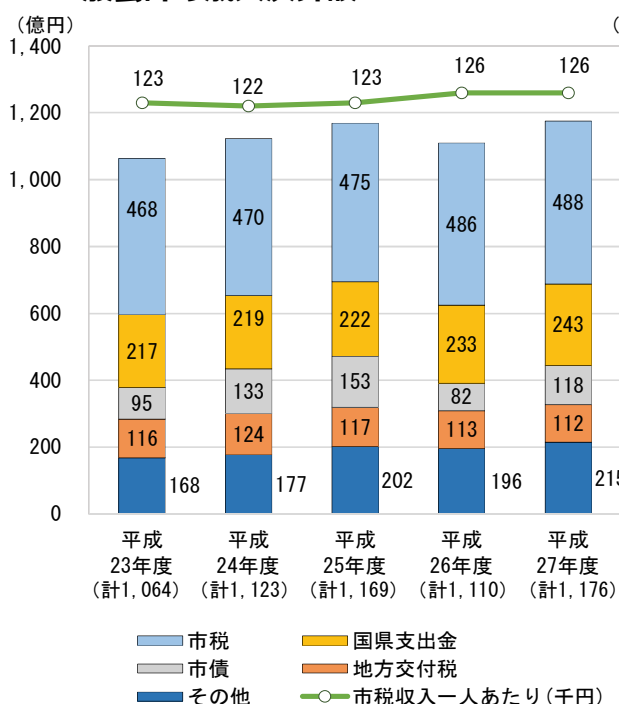
【現状】

- わが国の経済状況は、わずかながら回復の兆しを見せているものの、未だ先行きが不透明です。
- 本市においても、少子高齢化による税収減、普通交付税の段階的な減額等、歳入の減が見込まれる一方で、扶助費・公債費の増、インフラ資産を含む公共施設の老朽化に伴う更新・維持管理経費の増等により、財政の自由度は決して高くはありません。
- 子育て支援等、行政に求められるサービス内容は多様化し、需要も増大しており、また、地方創生推進事業による人口・雇用減対策等、地方に求められる役割と責任も増大しています。

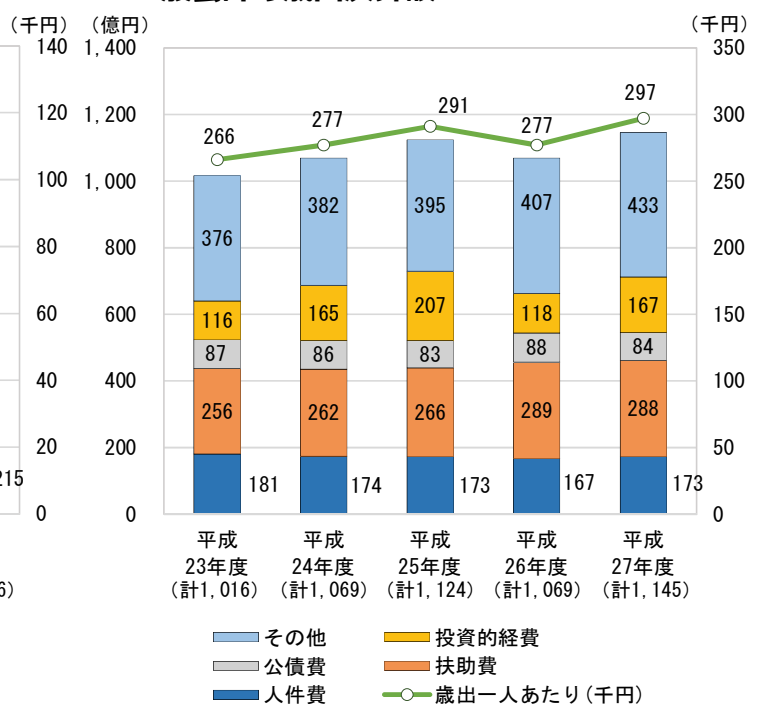
【課題】

- 社会状況の変動にも耐え得る財政運営を可能とするため、行政サービスの効率化、民間委託による行政のスリム化、行政財産や職員の能力の有効活用を行う必要があります。
- 「見える化」による行政活動の透明性を高める努力も必要です。

■ 一般会計の歳入決算額



■ 一般会計の歳出決算額



資料：一宮市

事業展開の方向性

●計画的、効率的な財政運営

行政改革推進事業、行政評価事業

●財源の安定確保

滞納整理事業、納税啓発事業、地方創生推進事業

●財政状況の分析・開示

財務書類4表作成分析事業、健全化判断比率等作成分析事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①経常収支比率	85.6%	85.6%
②実質公債費比率（3か年平均）	3.7%	3.3%
③市税徴収率	96.0%	97.0%

市民の体感指標

指標名	基準値
市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思う人の割合	13.3%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市行財政改革大綱（平成30～32年度：2018～2020年度）

市民が考えた「私たちにできること」

- 予算・決算に興味を持ち、公開された情報を確認する
- 税金をきちんと納める



用語説明

- 扶助費：社会福祉制度の一環として、児童・高齢者・障害者・生活困窮者等に対して行う支援に要する経費のこと。
（例）児童手当・生活保護費
- 公債費：借入金の元金や利息を支払う経費のこと。
- 経常収支比率：市税や普通交付税など経常的に収入される一般財源（使途が特定されない収入）のうち、人件費、扶助費、公債費など経常的な支出に充てた額が占める比率のこと。高いほど財政構造の柔軟性が低いとされる。
- 実質公債費比率：公債費やそれに準ずるものが、市の標準財政規模（標準的に収入が見込まれる一般財源の額）に占める比率のこと。

施策 4

公共施設の適切な維持管理に努めます

現状と課題

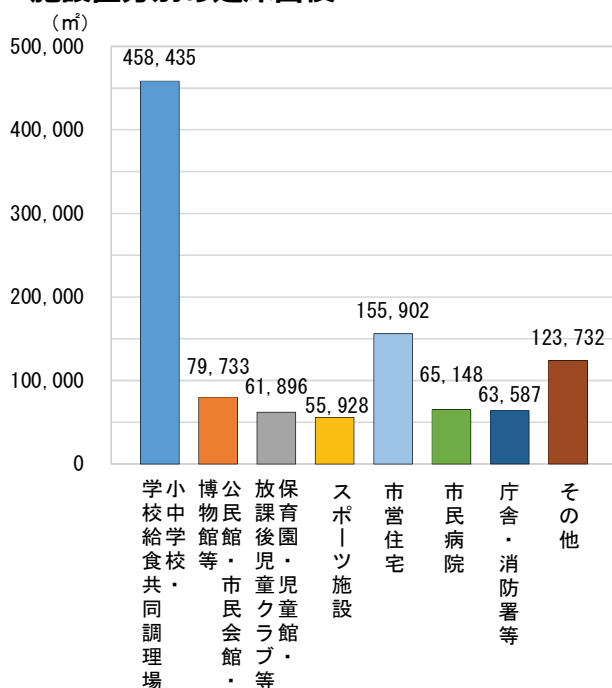
【現状】

- 昭和50年代に多く建設した公共施設が更新の時期を迎えます。
- 旧一宮市、旧尾西市および旧木曽川町の合併により、機能が重複する施設があります。
- 保有する公共施設等の状況と、その更新費用と財源の見込みから、公共施設の基本的な方向性を示す「一宮市公共施設等総合管理計画」を平成28年11月に策定しました。

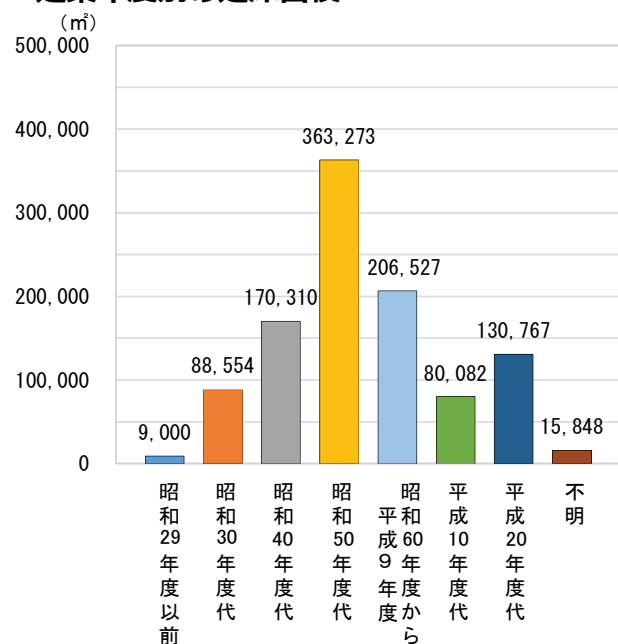
【課題】

- 人口減少に伴う税収入の減が見込まれるなか、一時期に多く建設された公共施設が一度に更新時期を迎えるため、更新費用の財源が十分に確保できない恐れがあります。
- 高齢者の増加に伴う扶助費の増加により、公共施設の維持更新に必要な財源が更に圧迫されることが予想されます。
- 社会環境の変化や地域特性に応じた適切な公共サービスの提供と安定した財政運営を両立させるため、公共施設を総合的に管理・活用する仕組みの導入が必要です。

■ 施設区分別の延床面積



■ 建築年度別の延床面積



資料：一宮市
(平成28年4月1日現在)

事業展開の方向性

●公共施設の長寿命化対策の推進

個別長寿命化等計画策定事業、公共施設等総合管理計画進捗管理事業

●大規模修繕や建替えの計画的な実施

個別長寿命化等計画策定事業、公共施設等総合管理計画進捗管理事業

●統廃合や複合化による施設総量の縮減

個別長寿命化等計画策定事業、公共施設等総合管理計画進捗管理事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①公共施設の延べ床面積縮減率	0%	2.3%

市民の体感指標

指標名	基準値
公共施設を不自由なく利用できている人の割合	36.8%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市公共施設等総合管理計画

市民が考えた

「私たちにできること」



- 施設をきれいに利用し、簡単な修繕はボランティアで行う
- 税金で建設されていることを意識し、必要以上に公共施設に頼らない

用語説明

○公共施設

ここでは、建物をはじめ、道路やごみ処理施設などの社会基盤にかかる資産も含む市が所有・管理する全ての施設のことをいう。



施策5

情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します

現状と課題

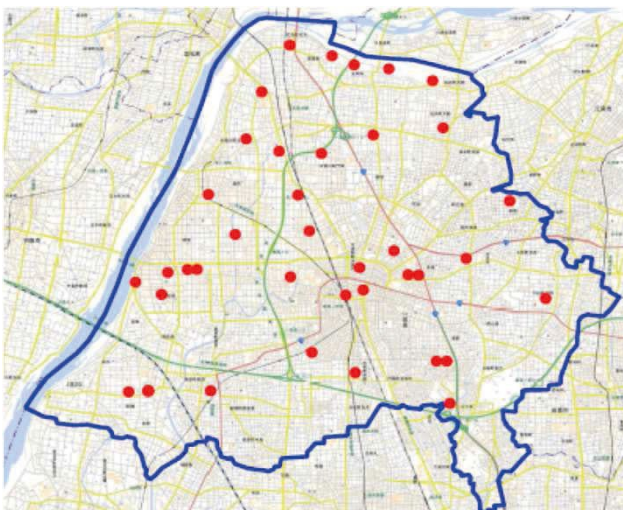
【現状】

- 民間では、フリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）などICTを利活用したさまざまなサービスが提供され、利便性が高くなっています。
- 行政サービスでは、ICTを利活用しているものの提供範囲が限定されているサービスや、ICTを利活用していないサービスもあります。
- 平成28年度に一宮市オープンデータカタログサイトを作成し、市が保有するデータを公開しました。
- 平成28年度に市民サービスの向上および災害時の情報提供などを目的に、公共施設で、無料でインターネットに接続できる「いちのみやフリーWi-Fi」を整備しました。

【課題】

- さまざまな民間サービス等も参考にしながら、積極的に行政サービスにもICTを導入し、市民の利便性を向上していくことが必要です。
- 市民の要望に合わせ、公開できるデータを増やすとともに、市が適切に管理した情報を、市民が活用しやすい方法で発信することが必要です。
- 引き続き「いちのみやフリーWi-Fi」の整備を進め、サービスの拡大により利便性の向上を図ることが必要です。

■ いちのみやフリーWi-Fiの設置状況



設置数
41施設（86アクセスポイント）

資料：一宮市（平成28年8月現在）

事業展開の方向性

●ICTを活用した行政サービスの推進

フリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）サービス拡大事業、クレジットカード納付事業、交通系ICカード支払事業、子育て支援サイト・アプリ運用事業、テレビ電話による通訳サービス事業、マイナポータル事業

●オープンデータによる市民等との協働

利活用のできるオープンデータ公開事業、大学・民間企業との協働事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①オープンデータ公開件数	60件	100件
②いちのみやフリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）アクセスポイント数	86か所	100か所
③インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数	—	13,200件

市民の体感指標

指標名	基準値
一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思う人の割合	15.3%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

○第2次一宮市情報化推進計画

用語説明

○オープンデータ

インターネットなどを通じて、誰でも自由に入手し活用できるデータのこと。

○マイナポータル

マイナンバー制度を利用して、行政手続きがワンストップででき、行政からのお知らせが自動的に届くなどのオンラインサービスのこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



○市のICTを活用した情報伝達手段を、知らない人や使い方のわからない人に教える

施策 6

適切な情報発信を行います

現状と課題

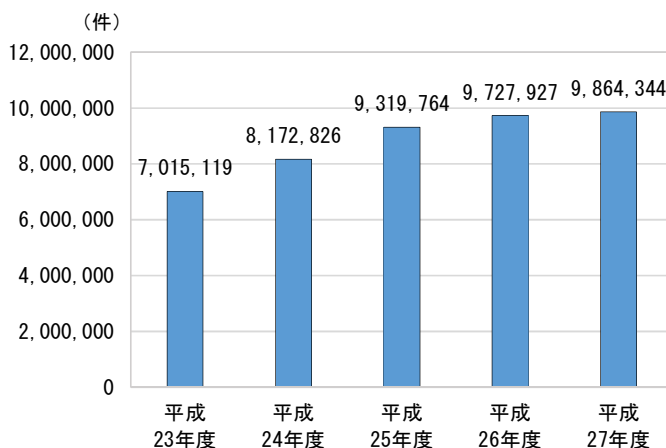
【現状】

- スマートフォン・タブレット端末などの携帯モバイルをはじめ、インターネットが急速に普及しており、40歳代以下の市民は広報紙よりウェブサイトで市政情報を得ていることが、市政アンケートの結果でわかっています。
- 近年、行政に対する信頼を高めるため、説明責任を果たすことも求められています。
- 平成28年度に一宮市オープンデータカタログサイトを作成し、市が保有するデータを公開しました。

【課題】

- 高齢者世帯では、利用できる情報媒体が限られているため、電子媒体のみでなく、従来からの紙媒体も併用しつつ、情報格差がないようにする必要があります。
- 市が保有するデータのうち、電子化されていないデータや2次利用できないデータ形式は、電子化や加工等の作業が必要です。
- 市民の要望に合わせ、公開できる行政情報（データ、文書等）を増やし、オープンデータを入手しやすい環境整備が必要です。

■市公式ウェブサイトのアクセス件数



資料：一宮市

パソコンやスマートフォンから
閲覧できる市公式ウェブサイト

事業展開の方向性

●適切で説明責任を果たす情報発信の推進

ウェブサイト等の運営事業、各種広報媒体の活用事業、SNSによる情報発信事業、市資料コーナー事業、行政文書の情報公開事業

●知りたい行政情報を入手できる環境整備の推進

行政文書の情報公開事業、利活用のできるオープンデータ公開事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①市公式ウェブサイトのアクセス件数	9,864,000件	11,840,000件
②オープンデータ公開件数	60件	100件

市民の体感指標

指標名	基準値
市からの情報を適切に入手できていると思う人の割合	44.1%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 第2次一宮市情報化推進計画

用語説明

- オープンデータ
インターネットなどを通じて、誰でも自由に入手し活用できるデータのこと。
- SNS（Social Networking Serviceの略）
フェイスブックやツイッターなどのインターネットを活用したコミュニケーションの手段のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



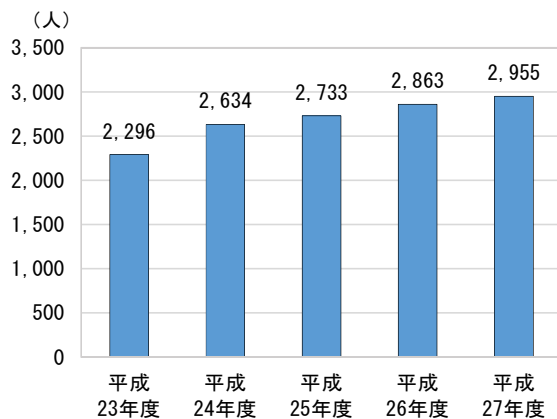
- 広報紙や公共施設等に配布されているチラシ、市ウェブサイトなどで必要な情報を入手する
- 地域の情報を積極的に市へ提供する

施策 7 市民との協働を進めます**現状と課題****【現状】**

- 近年、市民のライフスタイル、価値観の多様化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。
- 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化し、全てを行政サービスで対応するには限界があります。
- 災害支援等でボランティアやNPOの活動がますます世間に認知され、社会のために役立ちたいと考える若者や市民も増えています。
- 大学や企業とも協働によるまちづくりを進めるため、包括連携協定を締結しています。

【課題】

- 住みよいまちを実現するためには、市民と行政がお互いに知恵と力を出し合いながら、さまざまな課題を解決するという協働の取組が重要ですが、まだ協働の意識が十分浸透しているとはいえません。
- 協働の取組を推進していくためには、情報共有が前提となります。とりわけ、若い世代には市政への関心を深めてもらうために、SNSを活用することも必要です。
- 決して強制ではなく、できる時に、できることを、できる人が、できる範囲で、市政に参加できる仕組みが求められています。

■ アダプトプログラムの登録者数

資料：一宮市
(各年度末現在)



事業展開の方向性

●協働意識の醸成

まちづくり子ども出前事業、市民向け講習会開催事業、職員向け研修会開催事業

●まちづくりに関する情報共有

ウェブサイト等の運営事業

●まちづくり活動への支援

市民が選ぶ市民活動支援制度運用事業、市民活動支援センター運営事業、地域づくり協議会推進事業

●市政への参加の仕組みづくり

無作為選出による市民参加制度運用事業、市政ワークショップ事業、市民意見提出制度運用事業、アダプトプログラム推進事業、産学官連携事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①無作為選出制度における名簿登録者の割合	9.2%	8.0%
②市民が選ぶ市民活動支援制度の選択届出率	11.5%	15.0%

市民の体感指標

指標名	基準値
市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思う人の割合	19.2%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

用語説明

○協働

さまざまな人や組織がお互いの特性を活かしながら、「地域の課題を解決する」「より良い公共サービスを提供する」という共通の目的のために、共に考え、協力しながら取り組んでいくこと。

○SNS（Social Networking Serviceの略）

フェイスブックやツイッターなどのインターネットを活用したコミュニケーションの手段のこと。

○アダプトプログラム

ボランティアの市民・団体等が里親となり、道路、公園などを、自らの養子とみなして定期的に清掃活動や美化活動などを行い、面倒を見るやり方のこと。「アダプト」とは養子縁組の意。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 市の企画するワークショップ等に積極的に参加する
- イベント等のボランティア活動を行う
- 行政からの情報を積極的に収集し、また、市民の声も行政へ届ける

